

谷口房男

編

小林隆夫

研究叢刊二

明代西南民族史料

明実録抄

第二冊

東洋大学アジア・アフリカ文化研究所

研究叢刊 二

明代西南民族史料

— 明実録抄 — 第二冊

平成六年三月五日 印刷
平成六年三月十日 発行

【非売品】

編者 谷 口 房 男
小 林 隆 夫

発行人 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所

所長 恩 田 彰

発行所 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所

〒112 東京都文京区白山五丁目二八番二〇号
TEL 三九四五―七四九〇番

印刷所 ヨシダ印刷株式会社

〒130 東京都墨田区亀沢三丁目二〇番一四号
TEL 三六二六―一三〇一(代表)

研究叢刊二の発刊にあたって

アジア・アフリカ文化研究所所長 恩 田 彰

本研究所は、アジア・アフリカ地域における文化の変容過程について比較研究することを目的に活動し、創設以来三十五年を経過している。この間の成果は毎年『研究年報』として公表し、すでに二十七号を数えている。しかも、なおこれまでに蓄積された研究の成果や収集された資料が未公開のままとなっていた。本研究所は同学の研究者の便宜をはかり、また広く世に問うべき性格のものにつき、『年報』以外の場合で公表すべき機会を考えていた。従って、学内の諸機関に諮った上で、『研究叢刊』を発刊することができ、大いに喜びとするところであった。その第一巻はすでに一九八三(昭和五八)年に、谷口房男・小林隆夫編『明代西南民族史料―明実録抄―』第一冊として刊行されており、この度の本書はその続編である。第一冊刊行からすでに一〇年を経過しているが、この間も両研究員は鋭意資料の整理に当たり、その苦勞は並大抵のものではなかったと仄聞している。この度の刊行により

国内・外を問わず中国少数民族の研究者にとって、さらに貴重な資料となるものと確信している。本書は今後も引き続き刊行される予定であり、本叢刊が益々学界に寄与できるものであることを切に期待するものである。

なお、この叢刊を出すにあたり、多くの方々のご協力、ご助力を得た。特に、この事業を積極的に推進された東洋大学の学長菅沼晃教授、前教務部長吉田辰雄教授、学長事務室長山瀬善三氏および同事務室の方々、および本研究所の竹内老子氏には心から感謝の意を表するものである。

平成六年一月

凡 例

一、本史料集は、『明実録』の中から西南（四川・貴州・雲南地域）民族を中心とし、それらと密接に関わる周辺（湖南・広東・広西・青海・チベットなどの諸地域）民族に関する記事を抄出したものである。但し、チベット族・麓川の反乱・江西長河峒の反乱に関する史料は、主として土司制度関係記事にとどめた。なお本巻は、『明実録』の仁宗洪熙期・宣宗宣德期・英宗正統期のものを収めた。

一、本史料集において使用した『明実録』の底本は、中央研究院歴史語言研究所校印本『明実録附校勘記』（拠国立北平図書館蔵新鈔本、国立北平図書館蔵紅格抄本）である。

一、本史料集の内容は、『明実録』から抄出した西南民族等関係記事を本文とし、その民族関係語彙索引とからなっている。

一、抄出史料の表記は、実録名と巻数、年号・年月日、民族関係語彙見出、抄出記事、校訂の順とした。

(イ) 実録名と巻数……底本の実録名と巻数を示す。

(ロ) 民族関係語彙見出……各抄出記事中にみえる民族関係語彙を抽出し、見出として【】内に示した。なお見出語彙を補った場合には（ ）を付した。但し、人名・地名については、原則として省略した。

(ハ) 抄出記事……『明実録』から西南民族関係記事を中心とし、併せて周辺民族関係記事を抄出した。

(ニ) 校訂……使用した底本と黄彰健氏『明実録校勘記』中の諸鈔本との文字の校勘および国立国会図書館蔵本との文字の異同を示した。

一、抄出記事の活字化に当って、

(イ) 活字は原則として底本のままの字体(字型)を用いたが、時に俗字・略字・偽字等の異体字を正字あるいは本字に改めた。また底本中の誤字は、判読により文字を改めたものもある。なお底本中の段・湏・商は、段・須・商と改めた。

(ロ) 底本における特殊な文字(上・皇・天など)の前部が空格あるいは改行になっている場合の配慮は、原則として行わなかった。

(ハ) 抄出記事の中で、直接に民族関係記事でないものを省略した場合には、その部分に(略)と示した。

(ニ) 底本において文字の訂正がすでに行われているものは、訂正されたものに依った。

一、校訂の表記方法について、

(イ) 抄出記事中に底本と他の諸鈔本との間で文字の異同(空格・脱字・残欠なども含む)がある場合、その文字に○付き数字の番号を添え、「校」の部分で番号順にその文字と諸鈔本名を示した。

(ロ) 諸鈔本等の名称は、次のような略称を用いた。

国立北平図書館蔵紅格抄本(国立北平図書館蔵新鈔本)	館本
広方言館本	広本
抱経楼本	抱本
北京大学本	北本
中央図書館蔵明藍格抄本	中本
国立中央図書館蔵明翰林院鈔本	中本
国立北平図書館蔵札王府本	札本

- ・ 内閣大庫旧藏散葉……………庫本
 - ・ 嘉業堂旧藏藏鈔本……………嘉本
 - ・ 北平人文科学研究所旧藏旧鈔本……………東本
 - ・ 黄彰健氏『明実録校勘記』以前の校勘……………旧校
 - ・ 国立国会図書館（旧上野図書館）蔵本……………国本
- (ハ) 次に記すところの底本と国立国会図書館所蔵本との文字の異同については、校訂から省略した。

・ 正字と異体字（俗字・略字・偽字など）。

・ 同義異字……于―於、疋―匹、並―井、寒―𦵏、禽―擒、乃―廼、勿―弗、後―后、以―巳、修―脩、驗
 驗、着―著、偁―逼、効―效、係―繫、擄―虜。

一、民族関係語彙索引……抄出記事中の民族関係語彙を抽出した見出にもとづいて作成したものである。

(イ) 索引の配列は、見出語彙の画数・部首順とした。

(ロ) アラビア数字は、見出語彙の所在頁を示す。但し、同一頁内における同一語彙の重複はさけた。なお見出語彙を補ったものには、頁数に（ ）を付した。

☆ なお本索引の作成に当っては、東洋大学（東洋史）出身松浦均氏のご協力を得た、記して謝意を表する。

目次

研究叢刊二の発刊にあたって	一
凡例	五
民族関係記事	
・ 仁宗洪熙期	一
・ 宣宗宣德期	一九
・ 英宗正統期	三四五
民族関係語彙索引	1

仁
宗
洪
熙
期

明仁宗實錄卷一下

(永樂二十二年八月)乙未^①

【土官都指揮僉事】

西寧土官都指揮僉事李英從北征西回及交趾七源州判官趙福能貢馬賜鈔幣有差

〔校〕①己—國本。②(脫字)—広本・抱本・中本・國本。

(永樂二十二年八月庚申)

【土官指揮同知】

朝鮮國李禔遣陪臣玄貴命等貢馬及方物陝西鞏昌衛土官指揮同知汪壽貢馬賜鈔幣有差

〔校〕①②(脫字)—國本。③國王—広本・抱本・中本、(脫字)—國本。④物—國本。

(永樂二十二年八月)癸亥

【土官指揮同知】

于闐使者陝西丁及莊浪衛土官指揮同知魯失加等貢馬及方物賜鈔幣有差

〔校〕①夫—國本。

(永樂二十二年八月戊辰)

【軍民府土官知府・長官司長官・土官千戶・番僧】

哈密衛指揮僉事兒迷失四川建昌衛指揮使安普容等東川軍民府等處土官知府阿得遣叔安貴等昌州長官司長官阿壽遣把事自巴等陝西洮州衛火把等簇土官千戶喃喇約思等及番僧營着卜各貢馬賜鈔幣有差

〔校〕①晉—広本。②(脫字)—國本。③官使—國本。④把—広本・中本、己—抱本。⑤刺—広本・抱本・中本。

永樂二十二年八月

永樂二十二年九月

四

国本。⑥管—広本・抱本・中本・国本。⑦著藏—広本・抱本・中本・国本。

明仁宗實錄卷二中

(永樂二十二年九月乙酉)

【土官都指揮僉事】

勅陞西寧土官都指揮僉事李英爲陝西行都司都指揮同知

〔校〕①陞—旧校・国本。

明仁宗實錄卷二下

(永樂二十二年九月丁亥)

【(西番)】

命西天刺麻板的達爲圓覺妙應慈慧濟輔國光範洪教灌頂大善大國師僧錄司右善世智光爲圓融妙慧淨覺弘濟光範衍教灌頂廣善大國師谷賜金印

〔校〕①慧普—広本・抱本・中本。②弘—抱本・中本。③各—広本・抱本・中本。

(永樂二十二年九月庚寅)

【頭目】

定州衛都指揮保住四川建昌衛學生張珩貢馬及老撾頭目道彭等貢象馬象齒犀角賜鈔幣有差

(永樂二十二年九月戊戌)

【宣慰使・安撫司同知・軍民府千夫長】

四川播州宣尉司楊昇遣草塘安撫司同知宋珪等及雲南麗江軍民府千府長阿束通貢馬賜鈔幣表裏有差

〔校〕①慰—広本・抱本・中本・国本。②使—広本・抱本・中本・国本。③并—国本。④夫—広本・抱本・中本・国本。

〔永樂二十二年九月〕庚子

〔宣慰使同知・宣慰正副使・頭目・宣慰僉事・宣撫同知・

安撫・招討・宣撫僉事・安撫同知・副招討・長官〕

以即位賜京師文武百官及軍民人等鈔幣胡椒蘇木（略）其聽選及營造朝貢公差在京者武職都指揮鈔百錠指揮宣慰使同知副使宣慰正副使頭目鈔三十錠千戶衛鎮撫儀衛宣慰僉事宣撫同知副使安撫招討鈔二十五錠百戶所鎮撫典仗宣撫僉事安撫同知副使僉事副招討長官通事鈔二十錠旗軍井王府校尉人等胡椒一斤蘇木一斤（略）

〔校〕①宣—抱本・中本・国本。②一—国本。

〔永樂二十二年九月庚子〕

〔頭目・烏思藏〕

甘肅總兵官都督費璵奏安定曲先赤斤密落等處有賊千餘人於必立出江黃羊川殺傷朝使內官喬來喜等刼奪綵幣馬騾等物遂遣勅一道令璵等差的當頭目賁諭赤斤蒙古衛三道令都指揮李英同指揮康壽諭罕東曲先安定三衛着落挨查前項賊果是何簇分部落之人或禽拿解來或明白指實奏來庶罪有所歸其諭蒙古等衛勅曰比朝廷差內官喬表喜等同烏思藏等貢使賁勅及綵幣等物往烏思藏尼八刺等處公幹至必立出江黃羊川遇安定曲先赤斤密落等處賊徒五千餘人截路殺傷使臣刼奪綵幣馬騾牛等物罪不可容即欲調軍勦捕恐傷及良善爾等須挨查前項賊徒是何簇分部落之人或禽拿解來或明白指實具奏庶罪有所歸

〔校〕①賊五—広本・抱本・中本・国本。②壽實—広本・抱本・中本・国本。③來—旧校・国本。④等處—広本・抱本・中本・国本。⑤終—国本。⑥騾騙—国本。⑦（脱字）—国本。

永樂二十二年十月十一月

六

明仁宗實錄卷三下

(永樂二十二年十月戊午)

【土官】

交趾清威等縣土官黃廷滿等貢方物賜鈔^②有差

〔校〕①庭—國本。②鈔幣—広本。

(永樂二十二年十月己未)

【土官判官】

定州衛居住都指揮僉事吳守義等交趾廣原州土官判官岑斗烈等哈密等^②回回捨黑馬黑麻等貢馬及方物賜鈔幣有差

〔校〕①源—広本・抱本・中本・國本。②等處—広本・抱本・中本・國本。

明仁宗實錄卷四上

(永樂二十二年十月辛未)

【生番・蠻夷】

階州右千戶所百戶樊義言階州密爾生番蠻夷之心不可測度乞還向所調本所官軍九百三十餘人往甘州等處備禦者仍守本州黃鹿壩等寨關口從之遂命陝西都司調附近衛所官軍代往甘州

(永樂二十二年十一月辛巳)

【生番・番人】

四川行都司奏建昌衛有漫水灣地逼生番山勢險峻歲冬河涸番人時出標掠請置城堡量摘軍民兼守從之^①

〔校〕①標—旧校、剽—國本。

明仁宗實錄卷四下

(永樂二十二年十一月丙戌)

【西番・番賊・頭目】

甘肅總兵官都督曹瓖奏捕得西番盜馬賊人欲發去西寧都指揮李英處挨究勦獻不必發去差的當人解赴京來且諭瓖曰爾爲朝廷腹心故任以邊務李英亦爲朝廷効力于邊宜同心防禦不可自分彼此其山丹等衛汲水草場皆近甘州旣屢被番賊搶盜馬騾何不着落該衛及該管頭目設法隄備擒拿却欲行李英處挨究此心非出爾意必有下人造謀交構者切不可

〔校〕①費—広本・抱本・中本・国本。②瓖奉—国本。③瓖—旧校・国本。④且—国本。⑤洪—広本、及洪—抱本・中本・国本。⑥擎—国本。⑦必—旧校・国本。⑧可輕聽庶幾共立邊功以稱委任之重—広本・抱本・中本・国本。

(永樂二十二年十一月乙未)

【西番】

陝西必里等衛禪師羅卓星吉等及黑章哱簇刺麻失加等貢馬賜之鈔幣

明仁宗實錄卷五上

(永樂二十二年十二月戊申)

【苗蠻】

貴州布政使司言赤溪兩江口其地僻遠逼近苗蠻所置巡檢司不便命革之

永樂二十二年十一月—十二月

永樂二十二年十二月—洪熙元年正月

八

明仁宗實錄卷五下

(永樂二十二年十二月丙寅)

【官族・長官司・招討司・軍民府衙門舍人】

遼東自在州指揮阿籠哈等廣西太平府結安州官族張延及貴州思南府沿河祐溪長官司四川天全六番招討司雲南鶴慶軍民府等衙門舍人通事貢馬賜鈔幣表裏襲衣等物有差

〔校〕①何—國本。②南—國本。

(永樂二十二年十二月丙寅)^{①②}

【烏思藏・土僧】

陝西洮州衛及烏思藏西寧衛土僧刺麻福景等來朝貢馬賜之鈔幣

〔校〕①丁—國本。②卯—國本。

(永樂二十二年十二月) 庚午

【烏思藏・番僧】

烏思藏葛里麻等刺麻三竹朶爾只等隴答衛鎮撫三竹藏館覺刺籠番僧沙加端竹等貢馬賜之鈔幣

明仁宗實錄卷六下

(洪熙元年正月) 卒卯^{①②}

遣中官楊琳^③以即位詔諭老撾軍民宣慰使司及孟良府土官

【軍民宣慰使司・土官】

〔校〕①辛—抱本・國本。②卯—抱本・國本。③林—國本。④司—國本。⑤使—國本。⑥良—抱本。

〔洪熙元年正月癸巳〕

雲南等處金齒軍民指揮司及騰衝守禦千戶所等衙門土官貢馬賜鈔幣表裏有差

【軍民指揮司・土官】

〔洪熙元年正月甲午〕

必里衛慈善弘智國師失刺查等及館覺靈藏處護教王巴里藏卜等遣使貢馬賜鈔幣表裏有差

【(西番)】

〔校〕①刺—抱本・国本。②藏等—広本・抱本・国本。

〔洪熙元年正月〕乙未

遣使以即位詔諭罕東衛都指揮同知綽兒加國師割思巴監藏并賜白金衣綺表裏有差

【(西番)】

〔校〕①(脱字)—広本。②弄—国本。③文—抱本・国本。

明仁宗實錄卷七上

〔洪熙元年二月壬寅〕

烏思藏哈里麻等寺刺麻高僧葛竹瓦沙加藏卜等五十九人來朝貢賜鈔幣表裏有差

【烏思藏】

〔校〕①刺—抱本・国本。②貢馬—広本・抱本・国本。

〔洪熙元年二月戊申〕

【土兵】

洪熙元年正月—二月